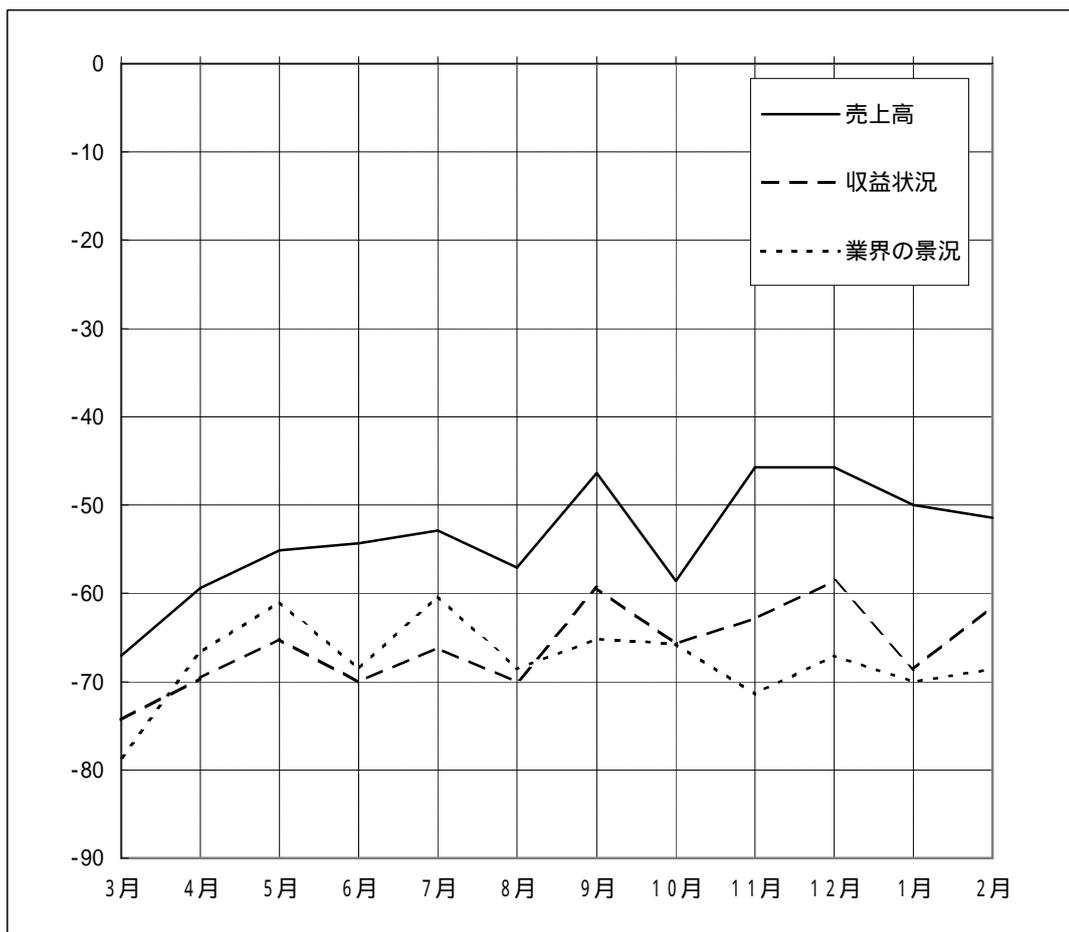


業界の景気動向(前年同月比)全業種DI値

平成14年3月～平成15年2月

単位:ポイント



	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月
売上高	-67.1	-59.4	-55.1	-54.3	-52.9	-57.1	-46.4	-58.6	-45.7	-45.7	-50.0	-51.4
収益状況	-74.3	-69.6	-65.2	-70.0	-66.2	-70.0	-59.4	-65.7	-62.9	-58.6	-68.6	-61.4
業界の景況	-78.6	-66.7	-60.9	-68.6	-60.3	-68.6	-65.2	-65.7	-71.4	-67.1	-70.0	-68.6

2月のDI値をみると、「売上高」を除く2項目で改善されたが、一進一退の様相は変わらない。「景況」は前月より1.4ポイントと僅かな改善ではあったが、2ヶ月ぶりに-60%台に戻した。「売上高」は1.4ポイントの悪化で、-50%台で推移。「収益状況」においては7.2ポイントの改善となったが、低い水準の-60%台のままで推移している。中小企業の景況は、「収益状況」等で一部改善が見られたものの、際立った回復感に乏しく引き続き厳しい状況下にある。

業種別の「景況」をみると、製造業では前月季節的要因から好転とした「食料品」でその割合が減ったこと等で全体的には変化はなく、相変わらず「鉄鋼・金属」「木材・木製品」「窯業・土石製品」で悪化とする割合が高く、また、非製造業では、前月全て悪化とした「商店街」でその割合が減ったものの、「小売業」で悪化が増えたこと等も含め、総体的には製造業より景況感が悪く、相変わらず「商店街」の他「卸売業」「建設業」「鉱業」で悪化とする割合が高くなっている。

組合の特記事項からは、「窯業・土石製品」「鉄鋼・金属」の製造業の一部で好転している報告もあるが、製造業全体では受注の減少や受注単価の下落、短納期等の厳しい受注環境下での売上高の減少等の他、不況感の影響等で需要が減少している報告がある。また、「商店街」「卸売業」を含めた非製造業では、相変わらず販売単価の低下や個人消費の低迷による売上げの減少等の他、大手業者等との競争激化の報告がなされている。総体的には製造業・非製造業の業種を問わず倒産・廃業(閉店)等の増加と先行きに対する不透明感・不安感等の報告が多く、相変わらず厳しい環境下にあることが窺える。